



新年のご挨拶

東京都立東部療育センター
院長 加我 牧子

二〇二〇年令和二年、子年の新年おめでとうございます。三十年弱の平成の世が終わり、令和はじめてのお正月を迎えました。

さて東京都立東部療育センターは昨年十二月一日、十四回目の誕生日を迎えました。

これまで都立東部療育センターの刻んできた年月の重みと志を感じながら、自らを高め、最重度の障害をお持ちの方々にも最高品質かつ最適な医療と、振り返った時、生きていてよかった、楽しかったと思っていただけのような穏やかで、感動のある素敵な暮らしをお届けできるようにと願っています。

昨年秋、福島県療育研究会で「都立東部療育センターの短期入所の現状と課題」につきお話しさせていただく機会があり、あらためて開設時からの当センターの状況を振り返ることができました。ひとくちに重症化、医療の高度化、重度化とまとめられがちですが、これは本当に大変な事態だと実感しました。超重症児（者）、準超重症児（者）の割合が一つの指標になっていますが、二〇一八年度の長期入所の方は七十八％、通所成人は八十二％、乳幼児は七十六％、短期入所の方も実に六十八％という数字です。開設直後の二〇一七年度にはいずれも五十五％だったことを思うと（これは現在でも他施設

設と比較するとびっくりされるほどはるかに高い数字です）、さらなる高騰化（この字を使うのは不適當かもしれないが）への不安について思案せざるを得ない状況のようにも思えます。

とはいいながら、大変な状況の中でも東部療育センター利用者のみなさまがすずやかに日々を楽しむ力、生命力のすばらしさに感動し、緊張の続く状況のなかで、当然のように医療、看護、介護、様々な領域で貢献をしているスタッフのハートとパワーに感謝する毎日です。

福島ではテレビの天気予報の時間に、県内各地の放射線量がルーチンに報道されており、東日本大震災による原子力発電所事故後の事実を追跡し続けていることに胸を突かれ、なにごとにも簡単に忘れてはいけなさと改めて感じました。重症心身障害児者の医療と暮らしへの福祉的対応は、行政の常識が「税金を払えない者に税金は使えません」だった時代に、我が子のために、また我が子だけでなくひろくほかの子供たちのためにもと、自分たち自身の規律を厳しく定めながら、言葉にならないほどのご苦労を重ねてこられた親御さんたちの熱い思いと、この願いに呼応できるところある多くの方々のおかげで守る会創立時の五十五年前とは比べられないほどの進歩を遂げました。この間の医療、看護、介護の飛躍的な進歩のおかげで重症心身障害児者も年齢を重ねられるようになり、新たな課題も出現しています。

暮れには富士山に会いに河口湖に行

きました。富士山に出会えるといつても幸せですが、その姿は、見入っている間にも、文字通り時々刻々と変化を遂げています。空の色、雲の流れ、お日様の光、時刻による変化はまさしく、めまぐるしいほどで、多くの芸術家の心をとらえて離さなかったわけがわかる気がします。

重症心身障害児者のおかれてきた歴史についても日々振り返り、現在を知り、外界の変容も思案のうちにいれながら、進むべき未来を考えていくことが求められていると感じます。

令和二年、今年が皆様にとって素晴らしい年になりますように祈念しております。
(院長 加我)



年頭の院長挨拶にて
(加我院長)

オータムフェスティバル



深川祭人の皆さん



プリコロ・ハウスの皆さんと利用者さん



オリンピックのテーマソングをイメージした作品

今年のゲームでは、リアル科学館のような宇宙旅行の空間に入り込み、スノーズレンルームのお化け屋敷の迷路に迷い込み、利用者や家族、職員も体験型のコーナーにワクワク、ドキドキ、怖がったり驚いたりと同様々な反応が見られました。

マーチング演奏では、楽しい演奏がすぐ近くで感じられ、今年初登場の深川祭人の歌で、日本の伝統を肌で感じる事ができました。暑い日差しの中の、熱い職員バンドもみんなを笑顔にしてくれました。

病棟や通所の利用者の作品展も個性豊かに飾られ、センターを盛り上げてくれました。ご協力頂いた皆さま、ありがとうございます。(二階西病棟 平井)



職員バンドの様子

乳幼児通所施設交流会

九月二十六日に東京都立東大和療育センター分園、よつぎ療育園と施設交流会を行いました。

六回目となる今回は、初めて通所バスでよつぎ療育園を訪れました。東部療育センターからは年長の二名、よつぎ療育園からは三名のお友だちが参加しました。

お楽しみ活動では音楽療法士による音楽活動を親子で楽しみました。ギターに合わせてお歌を歌ったり、楽器を演奏したりしながら、いつもとは違う活動や雰囲気を感じることができました。

(通所 小川)



施設交流会の様子

中学生職場体験



みんなで記念撮影

十一月六日(水) 八日(金)の三日間、都立両国高校附属中学校二年生三名

が当センターで職場体験を行いました。

今年も加我院長から医師という職業についての話を伺い、リハビリ科、中央監視、MSW、生活支援科、薬剤科、放射線科、検査科、看護科の職員がそれぞれの職種を通しての「仕事」についてレクチャーを行いました。

生徒の中には希望の職業もあり、とても参考になりました。

その他、車椅子体験、通所バスリフト体験、利用者との公園散歩などもありました。利用者として接しているうちに特別な存在ではなく、身近な存在に思えるようになったようです。

「今までは施設は暗いというイメージがありました。明るい職場ですね」と嬉しそうに話していました。

(療育部 鶴田)

二南病棟には二十三名の方が入所されています。今回は、二南病棟二十三名の入所の方の一年の様子をご紹介します。

新年が明けると自分で言葉を選んで書初め大会を行ないます。そして初詣に近所の富賀岡八幡宮へ出かけます。この時期は寒風に合うこともありすが、向かい風にも負けない出で立ちで今年のみんなの健康と幸せをお願いしに行きます。

春になり花々が咲きほころぶと隣にある水再生センターのお花見に行きます。桜をバックに素敵な集合写真を撮るのも楽しみなセンターの恒例行事です。

温暖化の昨今の夏は暑すぎて外に出るのはなかなか厳しいです。そこで真夏は病棟内で盆踊りや肝試し、水遊びなど夏ならではの遊びをして夏を満喫しています。

夏が去り暑さが和らぎ始める頃から、オータムフェスティバルの展示作品の取り組みが始まります。入所者それぞれの方の個性が集約

してひとつの大きな作品を作成します。できあがる過程はワクワクします。

十二月のクリスマス会では、各サークルで取り組んできたことを皆の前で発表します。全員がどこかで主役を勤めるクリスマス会はチョッピリ緊張する瞬間もありますが、誇らしくもあり、他の入所者を応援できる機会にもなっています。

二南病棟入所者の方々の活躍に今後も益々ご期待ください。

(二階南病棟 松林)

第四十六回東日本施設協議会に参加して

(東京都・豊島区)

十一月七日・八日、東京で開催されました。

一日目の特別講演では、東大先端科学技術研究センターの中邑教授が「重度障害者の意思の汲み取りは正しく出来ているか？」と題して、重度障害者とのコミュニケーションや、テクノロジーの必要性について話されました。

この講演では、今回の協議会の事務局に手伝いに来ていた当センター庶務係の遠藤さんが中邑教授に指名され、飛び入りで壇上上がり、重症心身障害児者に扮した教授から身体などの部分(目や手など)を動かして反応を示しているのか尋ねられ

ましたが、簡単には分ならずコミュニケーションを取ることに難しさを体験していました。

また、二つ目の特別講演として、秋津療育園の飯野理事長から「いつでも どこでも だれにでも いくつになっても 生涯学習を！」があり、「訪問カレッジ@希林館」の活動などが紹介されました。

続いて、「すべての重症児者のいのちときめく明日を目指して」年齢と状態に応じた日中活動の充実に向けて「テーマ」とした実践報告が、島田療育センター、東京小児療育病院、東大和療育センターからありました。

二日目は、「重症心身障害児者における意思決定支援」をテーマにシンポジウムが開かれました。

重症心身障害児者と家族、医療・ケアチームが、最善の判断を導くことの重要さと難しさを感じました。

(事務長 松浦)



中邑教授
庶務係 遠藤

給食の紹介

調理いろいろ ～調理をする～

調理加工の第3ステップが「調理(調味)」です。料理を「ジャー」に仕上げるためには、食品中に適当な水分・油分を残すことがポイントです。

また、肉・魚類は外バク質を多く含むので、加熱し過ぎるとかえって硬くなります。

表面は少しぱりっと、中はジャーにしたい時は、水分量や加熱温度に注意が必要です。

“硬くなってしまった！”場合は、あんかけやソースをかけて水分を補ってから召し上がって下さい。

※鶏肉は65度加熱で軟かく食べることができます。

柔らかく適当な水分を残すために向く調理方法

焼く・揚げるより



花火を楽しむ夕べ



花火に大興奮！

今年も毎年恒例の「花火を楽しむ夕べ」が八月七日、十四日、十六日、二十一日、二十三日に開催されました。夕方雨が降ったので、開催できるかハラハラもしましたが、夜になると雨もやみ一安心。最初に炭坑節と東京音頭で楽しんだ後、いよいよ待ちに待った花火大会。手持ち花火でみんな楽しく交流した後、メイン



手つなぎ花火♪



迫力満点の噴水花火！



太鼓も叩きました！

イベントの大型花火。色とりどりに光る噴水花火と天高く上がる打ち上げ花火を鑑賞し、とても楽しく夏のひと時を感じることができました。

(三南 小島)

乳幼児通所秋遠足

十月二十四日、二十五日秋遠足で成人通所と合同で江戸東京博物館に外出しました。昼食は第一ホテル両国のレストランでいただきました。保護者の方と同じメニューをペースト状にしてもらおう事ができ、お子様も一緒に美味しい料理を楽しむことができました。江戸東京博物館では昔の町並みや人々の様子を模型で見たり、人力車に乗って写真撮影をしたりしました。悪天候に見舞われた日もありましたが、館内では

ゆっくりと過ごすことができました。

(通所 小川)



人力車に乗る様子

成人通所バスハイク

十月二十四日、二十五日に、成人通所、乳幼児通所合同で江戸東京博物館に大バスハイクで外出しました。

二十四日は強風、二十五日は大雨に見舞われましたが、博物館の壮大なジオラマや歴史的な展示物の鑑賞を楽しんできました。十一月は四グループに分かれて小バスハイクに行きました。それぞれオリナス錦糸町(二グループ)、トリックアート迷宮館、ヴィーナスフォートに行き、

お買い物などを満喫しました。

(通所 齋藤)



館内で記念撮影

♪ 通所活動風景 ♪



水再生センター 4月 花見
桜の木の下で日光浴



江戸東京博物館 バスハイク
大きな熊手の前で記念撮影



アクアパーク品川 バスハイク
水族館でのんびり(๑)



お台場ヴィーナスフォートどんぐり共和国
バスハイク トトロと一緒に記念撮影

プール活動
とてもリラックスしています♪



第三十四回区局講演会

「こういふ重症心身障害施設もありますー大阪市・堺市の施設づくりの経験から」

講師 児玉 和夫 先生



児玉 和夫 先生

十一月十九日(火)全国重症心身障害福祉協会理事長、堺市立重症心身障害者(児)支援センターベルデさかいセンター長児玉和夫先生をお招きし、講演会を開催しました。

重症心身障害臨床に加え、日本の行政施策のブレイクとして、長期にわたるご経験をもとに、関西地域での多施設協力のもとで短期入所の新しい形を実現できる基盤作り、施設設計、運営の工夫を行い地域で生きる方々が自然体で支えられる施設運営の見本を示していただき、当センターの短期入所についての示唆を与えて頂きました。

(院長 加我)

第三十五回区局講演会

「入所施設での重大な医療の方針の検討や、アドバンスケアプランニングの一つとしての予めの御意向確認の仕方について」

講師 北住 映二 先生



北住 映二 先生

十二月十日(火)心身障害児総合医療療育センターむらさき愛育園名誉園長北住映二先生にご講演いただきました。

北住先生は一貫して重症心身障害者の医療、教育、福祉領域に絶大な貢献をなさるなかで、現在、社会的にも大きな課題となっているアドバンスケアプランニング(Advance Care Planning, ACP)、倫理的課題についても早くから考察を深め、臨床現場での応用をはかってこられました。

ACPについての厚生労働省のガイドラインの考え方、文言を含めた歴史的变化や具体的実践例の紹介を交えてご講演いただき、ご本人、ご家族に次いで日常的に関わっているスタッフがぐりかえし、深く考え、話し合いを重ねていくことの重要性を指摘されました。

(院長 加我)

東部あれこれ

秋のセンターの動きです。

【十月】

二日のオータムフェスティバルでは、保護者の方や来賓の方なども交えて作品を鑑賞したり、演奏や踊り・ゲームなどを楽しみました。

十二日から十三日にかけて台風十九号が記録的な大雨をもたらしながら関東甲信地方と東北地方を通過し、多摩川や千曲川が氾濫するなど広範囲にわたり被害が発生しました。当センターの近くを流れる荒川も氾濫のおそれがあったため、江東区や江戸川区は避難勧告を発令しましたが、なんとか浸水被害は発生せず済みしました。

【十一月】

十一月に入り晴れの日が多く気温は高めでしたが、下旬には曇りや雨の日が多くなり冷え込んでくる中、通所・病棟のそれぞれで元気にバスハイクに出かけてきました。

かもめ分教室の皆さんは十月末の学習発表会において、十五日・十六日に

は墨東祭に参加しました。また、六日から八日まで墨田区内の中学生三名が職場体験で当センターを訪れ、さまざまな職種

【十二月】

の職員から仕事について話を聴き、職業についての理解を深めるとともに、職員の利用者の方への真挚な対応が強く印象に残ったようでした。

十二月一日はセンターの開設記念日で、満十四年になりました。ちよっと気の早いクリスマス会が五日から開催されました。それぞれ趣向を凝らした出し物を、

ご家族やボランティアの皆様、かもめ分教室の先生方、職員と一緒に楽しみ、サンタクロースからプレゼントをもらい、きれいに飾られたおいしいクリスマスケーキをいただき、最高でした。

新人紹介

令和元年 十月

事務室 野口 愛加さん

令和二年 一月

看護師 齋藤 真理子さん

看護師 長峰 しのぶさん

【編集後記】

明けまして、おめでとーございませう。新春を新たな気持ちで迎えられた事とお喜び申し上げます。昨年は台風による河川の氾濫や大規模停電などによる災害がこれまでにない多量年でした。今年一年の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

←これまでのわか草を
ご覧になりたい方は
こちらからどうぞ

